



⑦ みしまじんじゃしゃでん 三島神社社殿

所在地 高山村大字中山地内（本宿）

本殿は、板葺・流れ造り・三間社で、最も一般的な神社本殿の形式をとっており、全体に不必要な彫刻・色彩等を避け、構造が誠実に表現され、建築としての落ち着きと素朴さを現出しています。

本殿内部に元禄13年（1700）墨書の棟札が残り、元禄期の神社建築の様式を知るうえで、県内における数少ない貴重な遺構であります。

祭神は、おおやまづみのかみ 大山祇神、おおくにぬしのかみ 大国主神、ことしろぬしのかみ 事代主神。

創建宝亀2年（771）9月15日、再建元亀元年（1570）9月15日。

（昭和40年6月1日村指定）



みしまじんじゃだいだいかぐら
⑧ 三島神社太々神楽

所在地 高山村大字中山地内（原・本宿）

江戸時代中期の享保7年（1722）からとされています。

中山神社・三島神社の祭礼にあわせ、神楽殿で演じられており、一般に大衆化された点もあって里神楽と呼ばれ、江戸神楽ともいわれています。神楽の語源は、神を招いて祀る祭壇「かみくら神座」からきています。

（昭和40年6月1日村指定）



しったかじんじゃだいだいかぐら
⑨ 尻高神社太々神楽

所在地 高山村大字尻高地内（北之谷）

江戸時代の末期、尻高全域の寄付によって奉納されるようになりました。岩戸開きを中心とした神話を舞に仕込んだので、岩戸神楽とも呼ばれ、尻高神社の祭礼に神楽殿で演じられています。

（昭和40年6月1日村指定）



⑩ やくばらじし 役原獅子

所在地 高山村大字尻高地内（役原）

室町時代に付近一帯を支配していた尻高氏が、信州の諏訪神社を勧請し、その祭典に伝わる遠州流獅子舞を招いて住民に教えたのが始まりで、太鼓を持った獅子と、ささらを持った踊り子の3組が、頭の叩く太鼓や笛かしらに合わせて踊ります。

現在使われている獅子頭は、徳川末期弘化3年（1846）に作られたものです。
（昭和40年6月1日村指定）





かんのんやままがいぶつ ひゃっかんのん
⑪ 観音山摩崖仏 (百観音)



所在地 高山村大字中山地内（本宿）

本宿の観音山の中腹の垂直な岩面に多数の仏像が彫られており、正確な数は不明ですが99体が確認されています。観音菩薩像・地蔵菩薩像・不動明王像がみられ、作者は安永年間の信州小河内村石屋甚四良と考えられます。

（昭和52年10月1日村指定）

なお、岩の根腰に以前観音堂があり、写真にある聖観音菩薩像がありましたが、現在は法信寺に安置されています。



なかやまじんじやおおすぎ
⑫ 中山神社大杉



所在地 高山村大字中山地内（原）

目通り 3.05m～4.37m 根元回り 3.85m～8.00m

樹高（最高）31m 樹齢 400年以上

中山神社は創建元慶2年（939）美濃国一の宮南宮大明神を勧請、境内に推定樹齢400年以上の9本の大杉が植えられています。

（昭和52年10月1日村指定）



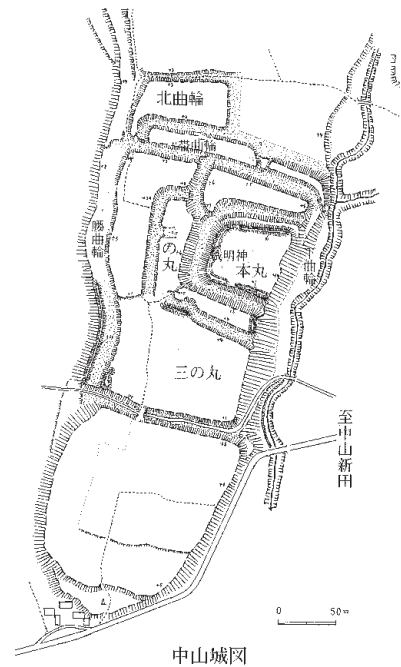
きたのやいなりじんじゃ
⑬ 北之谷稲荷神社

所在地 高山村大字尻高地内（北之谷）

北之谷集落北部の滝の下にあり、元禄16年（1703）向井伊賀守主税によって建立されました。社地は、租税を免除された除地としては尻高随一といわれ、祭神は稲荷大明神であります。特に拝殿の天井画は当時の色が未だ褪せず見事です。

（昭和55年2月21日村指定）





なかやまじょうし
14 中山城址

所在地 高山村大字中山地内（新田）

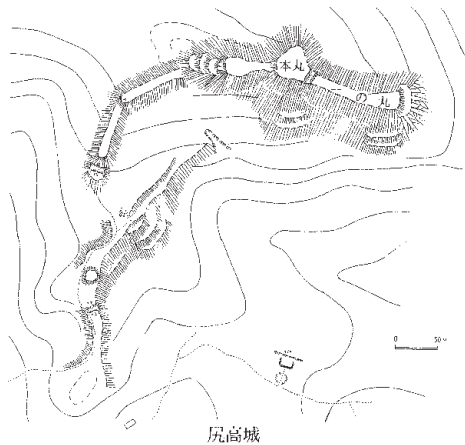
上杉・武田・北条ら戦国大名の覇権争いの中、天正10年（1582）以後、小田原北条氏によって築かれた「境目の城」です。なお、舌状台地での縄張りは、最も安全な先端部を主廓とするのが通例ですが、この城は東北部の付け根に本丸が置かれています。

東西126m、南北125m、深さ9mの空堀をめぐらし、本丸の他、多くの曲輪を備えた壮大な城です。天正18年（1590）北条氏の滅亡により廃城となりました。

（平成元年11月30日村指定）



要害城



里城

15 尻高城址 しったかじょうし

所在地 高山村大字尻高地内（北之谷、熊野）

尻高城は北之谷古屋の要害城と熊野並木の里城からなっています。応永8年（1401）白井城主の伊玄入道三男・藤原重儀によって築られました。重儀は尻高左馬頭と号し、尻高のほか大塚や赤坂辺まで領有し威勢盛んでした。天正2年（1574）5代景家は、武田・真田に攻略され戦死、景家の子義隆は北条氏の宮野城を守っていたが追い詰められ怨林寺で自決、尻高氏は滅亡しました。

山城跡は、四面急峻な地形で本丸・二の丸その間の堀切、いくつかの小郭から成り、石宮が6基、平時の居館であった里城跡にも石宮1基が残っています。

（平成元年11月30日村指定）



①⑥ なくたぎょうかい 名久多教会

所在地 高山村大字尻高地内（熊野）

名久多教会は明治20年（1887）信者22名によって建築されました。建築費252円99銭8厘、その他用材等は信者の寄附で賄われました。当初は名久多会堂基督教講義所と称し、県内に現存する教会堂の中で最も古い明治の洋風建築物です。間口3間半奥行5間のこの建物は復元前は大壁造りで最初は板葺屋根でありましたが、昭和46年に復元工事、更に平成5～6年にかけて屋根と内部全体の改修工事は一信者によって行われました。（平成元年11月30日村指定）



なかやまじゆくしんでんほんじん おお
①7 中山宿新田本陣の大けやき



所在地 高山村大字中山地内（新田）

目通り 10.70m 根元回り 13.70m

樹高 約30m 樹齢 約600年

大けやきは、国登録文化財「平形家住宅門屋」の長屋門を入り、屋敷の庭を通りすぎた西南隅にあり、根の張りは14m弱で特に大きくはなく、そばまで近寄れるので、真下から見上げると上の方まで太いのがよくわかります。はがれ落ちそうになっている一枚一枚の樹皮がまた大きい。600年の星霜を経て、風雪に耐えた大樹であり、自然の偉大さを感じ、一種の圧迫感さえ覚えます。

（平成元年11月30日村指定）



⑱ なぎなた坂の歌碑

所在地 高山村大字中山地内（茶屋ケ松）

中山峠の北毛青少年自然の家入口より300mほど南進して茶屋ケ松集落が見える所、旧道のなぎなた坂の中腹にあったものを、地域住民の奉仕によって現在地に遷しました。昭和9年陸軍特別大演習が群馬県で行われ、聖駕奉迎記念として万葉歌碑とともに建立したものです。由来は廻国雑記の中にある歌で道興准后（関白良嗣の後裔聖護院と称す）の紀行文にして、文明18年（1486）6月京都を立ち北陸を回り三国峠を越えて7月中旬中山峠を通り鎌倉へ行く途中、此の地で詠めるものです。

つえをだに重しといとふやまこへ
杖をだに重しといと布山越へ

なぎなたざか てぶり
薙刀坂を手婦理にぞゆく

（平成元年11月30日村指定）



19 ごりょうふどうそん 五領不動尊

所在地 高山村大字中山地内（五領）

天正年間、みなかみ町名胡桃にあった不動尊を五領の地に勧請したが、火災に遭い安政4年（1857）再建されました。不動明王像を本尊として、光水山本龍寺と称し、五領公民館の後の小山の頂にあります。

初不動の宵祭りには、病氣平癒のための願掛けで、法信寺住職による読経の後、参詣者によって、念仏を唱えながら大きな数珠を廻す、いわゆるひゃくまんべんねんぶつ百万遍念仏が行われます。

（平成8年6月27日村指定）



⑳ **添うが森**

添うが森



添わずが森



㉑ **添わずが森**

所在地 高山村大字尻高地内（関田）

石古根の名久田川南側に添うが森、反対側の国道を登ったところに添わずが森があります。天慶の乱に平将門の征伐のため東国に下った小野好古の臣小野俊明は、日頃恋い慕う「あわび姫」の色香に迷い出陣の機を失いました。

それから女に迷う罪悪を悟って、出家して名を熱退（又は祢津太江）と改め、尻高竜海山泉照寺の住職となりました。

天慶7年（944）の8月、あわび姫は一子小太郎を伴って熱退の住むところを知り、はるばる慕って来ましたが熱退はどうしても逢おうとしませんでした。そしてあわび姫に一首の歌を送ったそうです。

美しき花に一足踏み迷ひ 出家の道にかがやきにけり

あわび姫は身を悲しんで一子小太郎とともに河水に身を沈めて一首の歌を残したそうです。

半形となるもあわびの片思ひ 未来は深く添うが森せん

村の人は、その母子を哀れんで亡き骨を葬りました。この塚を鳥見塚といい、この塚に恋の願いを掛けると必ず叶うというので「添うが森」と呼ぶようになりました。

その後、熱退和尚は病気となり、吾れ死なば鳥見塚の向いの地に埋めよと遺言し、一首の歌を残して死んだそうです。

身を思へば世に名をよごす人々の 迷ひの花も散らしけるらん

村の人は遺言に従ってこれを葬り、熱退の塚と名づけました。熱退の亡霊が悪縁切れない人の夢枕に立って、吾れを信ずれば必ず縁を切らせるであろうといい、この塚を「添わずが森」と呼んだそうです。

（平成26年1月17日村指定）



なかやまじゆくしんでんほんじん
 ② 中山宿新田本陣

所在地 高山村大字中山地内（新田）

国登録文化財「平形家住宅門屋」の長屋門を入ると、現存していないが大きな茅葺の母屋があって、三国街道中山宿の間屋とんやを兼ねていました。門屋と母屋の間やや奥まって、大名の休泊用の棟があり、一段高い上段の間、違い棚の床の間、畳敷きの廁かわや、木戸の無い風呂場、近臣の控える次の間、宿札やどふだ（関札）等が当時のまま保存されています。（平成28年3月24日村指定）



②③ まんようかひ 万葉歌碑

所在地 高山村大字中山地内（新田）

東地区広場の北にあり、昭和9年陸軍特別大演習が群馬県で行われ、聖駕奉迎記念として、なぎなた坂の歌碑とともに、村民の奉仕作業によって建立したものです。

万葉集は、7～8世紀にかけての歌を集めた日本一古い歌集で、そのうち、巻第十四の東歌は、奈良から東の地域の人が詠んだ歌で、詠み人はしるされていませんが、この歌もこの巻に載っていました。

あかみやま くさねかりそけ あわすかへ
安可見夜麻 久左祢可利曾氣 安波須賀倍
あらしそふいもし あやにかなしも
安良蘇布伊毛之 安夜爾可奈之毛

この歌心は、

（みなかみ町の境にある）赤見山で、草を刈り取って めあわせしようとしたら
逆らったので いよいよかわい愛くなったよ

（平成28年12月21日村指定）



そうしょうじ てつげんばんいっさいきょう
24 雙松寺 鉄眼版一切經



所在地 高山村大字中山地内（本宿）

經藏・律藏・論藏の三藏とその注釈書を含めた仏教聖典の総称（6,930巻）を大藏經とか一切經といいます。当寺の一切經は、当山7世万徹忍和尚の代、寛保元年（1741）に7代平形作右衛門によって寄進されました。また、經堂が著しく破損したため、14代作右衛門の喜捨により新築されました。

（平成29年6月28日村指定）